協定海外留学レポート

協定海外留学プログラム：ショートプログラム
留学先大学：バーミンガム・シティ大学（イギリス）
大学院美術研究科 博士前期課程 デザイン専攻 アートプロデュース研究領域 ２年次
Ｎ・Ｔさん

私が所属していた Arts and Project Management はアートを初めとするカルチャーに特化したイベントやプロジェクトのマネジメントやオーガナイズを学びます。その中には、キュレーションの授業やマーケティング、ビジネスのクラスが組み込まれ、社会での即戦力に繋がる授業が実施されていました。アジアでのアートイベントのニーズが増加傾向にあるせいか、クラスメイトはイギリス人学生よりアジア人学生が多い印象でした。

今回の留学は私にとって、挑戦でもありました。私はこれまでオーストラリアとドイツの留学経験がありましたが、大学院での留学は初めてでした。私は現在の自分の英語力が英語を母国語とする国でどこまで役立つのか試してみたかったのです。また、イギリスの大学院を考えていた時期もあったので、実際にイギリスでの大学院生活はどういったものなのかを体験できる絶好の機会でもありました。結果、コミュニケーションには困ることはありませんでしたが、やはりここは大学院、専門的な分野を学ぶ場所です。女子美では学ぶ機会が無かった、イベントを実施するために必要な企画力を細かく学びました。初めて聞く言葉ばかりでしたので、授業の講義を理解するのは難しく、毎回予習をしてから授業に臨みました。課題も沢山出るので、図書館と家を行ったり来たりするのが日課でした。私が提出した課題は自分が現在日本で取り組んでいる研究テーマの展示プラン。担当の先生とも何度かチュートリアルをしながらプランを完成させました。そして、最終日にはその展示プランのプレゼンテーションも行いました。

留学をすると人々との繋がりが格段と広がります。学科長である Jonathan Harris 先生は温厚な方で、一緒にランチに行ったり、今後の活動について話し合ったり、大変良い関係が築けたと思います。チャイニーズコンテンポラリーアートの教授 Jiang Jiehong 先生は、彼がプロデューサーを務める日本でのプロジェクトへの参加を私に呼びかけて下さいました。詳細はまだ未定ですが、近いうちに日本で再会できそうです。こうした繋がりは、女子美を通した留学プログラムだからこそ実現できたのではないかと思います。勿論こうした繋がりは学内だけではありません。イギリスから女子美に留学に来ていた留学生と再会したり、パリやロンドン、スコットランドに知人を訪ねに行ったり。海外で活躍する日本人の方々からたくさん刺激を頂くことができ、自身のモチベーションを上げることができました。

アートプロデュース研究領域に在籍する者として、今回私はイギリス国内のアートスペースにできるだけ足を運びました。お陰で多くの素晴らしい展覧会に出会うことができました。しかし、こうして海外での展示を見ると、「日本では何故こういった展示ができないんだろう？」、「なぜアートに対するサポートが少ないのだろう。」などと様々な疑問が湧いてきます。私は、そうした「なぜ？」を大切

に日本に沢山持ち帰って、今後の日本での研究に生かしていきたいと思っています。今回の留学で、日本のアートに対する教育と国民意識が如何にイギリスと異なるのかを目の当たりできたことは大きな収穫の一つと言えるでしょう。